

百五十一年目のスタート

金井小学校

藤井 衛



一 はじめに

昨年度、ときわ会は創設百五十周年の節目の年を迎えた。新型コロナウイルス感染症が二類から五類移行した絶妙のタイミングで記念式典を挙行することができた。

朱鷺メッセを会場に現職会員が一堂に会した式典は、改めて対面の良さを実感することができた。佐渡支部から約八割の会員七十八名が参加した。盲目のシンガーソングライター佐藤ひらりさんが歌う「ときわプライド」の歌詞が心に刺さり、ときわ人としての矜持をもつことができた。今年度、ときわ会は百五十一年目のスタートをきる。

二 本部 活動の重点

山田浩之新会長は、四月に行われた代議員会で「人材を生かし、主体的に学び合い鍛え合う研修、人と人とを確かにつなぐ組織運営」を基本方針とすることを宣言した。そして一枚のポインチ絵で分かりやすくした活動の重点を三点示した。

- ① 主体的に学び続ける会員一人一人の資質・能力を高めるため、ときわ会の多様な人材を活用し、ニーズに応じた魅力ある研修を推進する。
- ② ときわ会の多様な人材をつなぎ、会員一人一人の人間力を向上させるため、各種会合の内容と方法を工夫し、組織の活性化を図る。
- ③ ときわ会の趣旨や活動の理解、社会への認知を図るため、研修や活動の情報公開と発信を進め、会員内外のネットワークを強固にする。

三 支部 活動の重点

昨年度、支部活動として「ときわ会創設百五十周年記念事業

業」を成功裏に終了することができた。百五十一年目をスタートするにあたり、さらに「進化、深化し続けるときわ会の真価を問う」の実現に向けて支部活動を推進する。佐渡支部では次の二点を重点に支部運営をしていく。

- ① 「ルネス・E運動IN佐渡」の各部が中核となり、実践的指導力を高める研修を充実させる。また、セレクト研修にも積極的に参加を呼びかけ、全県の仲間と交流を深める。
 - ② 会員の連帯感と結束力を高めるため、対面による集いを原則とし、オンライン等新しい形の集い方を積極的に取り入れながら、会員間のネットワークの構築に努める。
- 加えて次の三点を努力目標とし取り組む。
- ① 新入会員の入会促進…学校代表者及び地区理事による積極的働き掛けを行う。(女性会員・夫婦会員も)
 - ② ときわ会本旨に基づき、教

育実践や社会貢献等の活動を長年にわたって行い実績をあげている支部会員を「佐渡支部顕彰制度」により報奨する。

- ③ ペーパーレス化やメール送信による郵送費削減等を行い、支部会費の削減を行う。毎年、経費の必要性を検討し、必要最小限に留める努力を続ける。

四 おわりに

新型コロナウイルス感染症の数年間、学校生活と同様に、ときわ会の活動にも大きな制限が加えられた。希薄になった人間関係を取り戻すことは容易なことではない。酒席が無くなったことにより、顔が分からない会員が増加した。しかし、この間、オンラインでの交流は充実し、ズームやチームスで抵抗なく話ができるようになった。時代が変化する中で、ときわ会も変革の時期を迎えている。

人とのつながりを回復し、新たなつながりを構築できる会の運営を目指す。ときわ会は今後進化し、深化していく。